



役員室 拝見！ ニューロン製菓社長・矢澤孝樹さん

2019年01月28日 06時30分

ツイート シェア

★ 記事スクラップ



「『小さな飴から、大きな幸せ。』を企業理念として、皆さまの『大きな幸せ』を実現する『幸せの小さな器』をこれからもお届けしてゆきたいと思えます」と話す矢澤孝樹社長

画像拡大

■矢澤 孝樹（やざわ・たかき）さん 50歳

（ニューロン製菓株式会社代表取締役社長、株式会社アンデ代表取締役会長。塩山中学校—都留高校理数科—慶應義塾大学文学部卒）

【ニューロン製菓の沿革】

1949（昭和24）年に創業し、今年70周年を迎えた菓子製造販売会社（甲府市西下条町）。大手菓子メーカーの相手先ブランドによる生産（OEM）が中心だが、昨年11月に京都のデニッシュパン製造・販売会社「アンデ」を統合合併し、消費者に直接販売する業態にも参入した。「ニューロン製菓」の名前は、初期の主力商品だった「ニューロングキャラメル」に由来する。

1949年1月、甲府市太田町で清水治氏を社長に水飴製造会社として創業、のちにニュー甲府製菓としてキャンディー、キャラメル製造に進出。56年5月、金丸信氏が社長に、孝樹氏の祖父の矢澤正男氏（のちに社長）が専務に就任、キャンディー、キャラメルメーカーとしての地位を確立した。63年10月、ニューロン製菓に社名を変更。「ひなどりバターボール」や「ニューロングキャラメル」「信ちゃん飴」など自社製品を中心に製造・販売した。

84年8月、孝樹氏の父親矢澤勝太氏が社長に、祖父正男氏が会長に就任してからOEMにかじを切った。2008（平成20）年1月、後継予定者だった孝樹氏の弟矢澤聡明常務が交通事故で急逝したため、茨城県民になっていた孝樹氏が帰郷を検討することに。同年8月に甲府南部工業団地・西下条地区（甲府食品工業団地）内に本社工場が完成し、甲府市青沼二丁目から移転した。

2009年8月、孝樹氏が19年間勤めた水戸芸術館を退職して同社に常務取締役として入社。13年6月、孝樹氏が社長



今期の経営方針のスローガンは「UPDATE NEWLON!」。「今まで歩んできた方向を信じ、『変えてしまう』のではなく、自分たちの力を『アップデート』してゆく一年へ！」にしたいと願う

画像拡大



アンデのデニッシュブレーン。「小麦の旨味がぎっしり。ほんのり甘くて香り高い人気のブレーン」だという



矢澤孝樹社長の祖母が書いたという斎藤茂吉の短歌が額装されて2階の事務室入り口に掲げてあり、目を引く



本社入り口に飾ってある葛飾北斎「凱風快晴」版画は、アダチ版画による当時の製法の復元によるもので、山梨の企業としての思いを込めたという。創業70周年を祝って贈られた胡蝶蘭なども飾ってある



に、勝太氏が会長に就任。孝樹氏は経営理念、ミッション、行動憲章、行動規範を策定し、組織改革を推し進めた。14年11月、同社は「やまなし産業大賞・経営品質優秀賞」を受賞した。現在、大手菓子メーカーなど約40社から製造委託を受けているキャンディー、のど飴、キャラメルなどは70～80種類にも及ぶ。

【矢澤孝樹社長のプロフィール】

1969年、甲州市生まれ。ニューロン製菓第5代社長。塩山中から「文系国公立大を目指したい」と都留高校理数科（当時）に進学したが、「数学と物理がまったくできなかつた」と私立大文系志望に転向し、慶應義塾大学文学部仏文科に進学。しかし、かねてから関心の強かつた音楽美学への思いが強く、美山良夫教授のアート・マネジメント研究ゼミで学んだ。大学院に進学しようか迷っていたところ、美山教授の勧めや家族の理解もあり、水戸芸術館（茨城）に学芸員として就職。日本の音楽評論で先導的な役割を果たしていた吉田秀和氏が館長だったことから「その著書を愛読させていただいていた吉田先生の元で働けるならこんなに素晴らしいことはない」と決断した。

主任学芸員として勤務していた2008年1月、孝樹氏39歳の誕生日に、当時ニューロン製菓常務取締役で後継者の予定だった弟の聡明氏＝当時（35）＝が交通事故で急逝。「私の誕生日の出来事でもあり、弟からバトンを渡された気がした。山梨に戻らざるを得なかつた」と2009年8月、19年間の学芸員生活に別れを告げ、会社経営の道へ一歩を踏み出した。

「当時のニューロン製菓は、さまざまな苦しい状況の中であり、リニューアルする必要があつた」と社業の立て直しや組織改革、イメージアップなどに努めながら13年6月、社長に就任。「小さな飴から、大きな幸せ。」に代表される企業理念や行動憲章などを策定した。また、会社のコーポレート・アイデンティティー（CI）を進めた。こうして大幅に業績を向上させた後、18年11月にはM&A（企業の合併・買収）による事業拡大で、京都の高級パン製造業「アンデ」の全株式を取得し、大手菓子メーカーなどの飴やのど飴、キャラメルのOEM請け負い中心の業態に加え、消費者に直接販売する業態にも参入することを決断、アンデの代表取締役会長に就任した。

水戸芸術館時代からの音楽評論も継続しており、「レコード芸術」「CDジャーナル」など音楽専門誌のほか、全国紙の夕刊CD評なども執筆している。茨城大学、慶應義塾大学非常勤講師を経て、現在、山梨英和大学メイプルカレッジ（市民講座）講師も務める。

「学芸員の仕事と会社経営の道はまったく畑違いの仕事かと思っていたが、演奏会をお届けすることと、キャンディーやキャラメルをつくってお届けすることは、良いものをつくってお届けし、笑顔になっていただきたいという根本においては、ま



平成26年度やまなし産業大賞の経営品質大賞部門優秀賞の表彰盾が入り口に飾られている



まったく変わらないと思っています。経営もオーケストラと似ていて、社員、演奏者の意識やスキルを高めてもらいつつ、一人一人の役割と責任を明確にし、良いバランスをとっていくことが大切です。舞台裏の指揮をする立場だったことが、経営の面で役立っています。この方向に社員が賛同し、共に改革に努力してくれたことは幸いでした。また、大手メーカーをはじめとするお客さまの要望にお応えするというOEM、つまり黒子であることで、内向きになってしまいがちでしたが、しっかり説明責任を果たせる企業でありたいという願いから企業理念や行動規範などを定め、ホームページを開設するなどこの10年の中で現代の企業としての在り方を追求してきました」

【社長室について】

甲府市西下条町の甲府南部工業団地・西下条地区の一角を占める同社の本社工場2階に社長室がある。食品メーカーとして特に衛生面の管理を徹底しており、来客も入り口で上履きに履き替えるのはもちろん、冬季には事務室に入る前に薬品を使った手洗いとうがいは必須。社長室は応接室も兼ねていて、広さは約16平方メートル。社員が接客や打ち合わせに共用する場所でもあり、矢澤社長自身の「色」は強く出していないという。社長の椅子の後ろには本棚があり、社長が「経営面においても学ぶ点が多い」と関心を持つ歴史書を中心に書籍が並ぶ。食堂には社員のための「ニューロン文庫」がある。



「ニューロン製菓」の社名は「ニューロングキャラメル」に由来するが、神経細胞を表す「ニューロン」を連想されることも少なくないという。「神経細胞は“伝える”のが役割なので、それはそれで悪くない」という矢澤孝樹社長が就任してからロゴマークを作成してイメージ向上に努めている



【趣味】

「音楽についての執筆、講演は『仕事』なので、趣味という展覧会・映画鑑賞、読書、鉄道です」と矢澤社長は説明する。

「仕事」という音楽についての執筆、講演活動は水戸芸術館の主任学芸員を務めていた当時から続く専門的な活動。「経営に従事する以上、ご依頼いただいた執筆のみと誓ったが、ありがたいことにむしろご依頼が増えています」という。今でも「レコード芸術」（音楽之友社）などには毎号欠かさず執筆活動をしている。「趣味」として聴く音楽はロックとジャズで、最近では映画「ボヘミアン・ラプソディ」に感激したという。

展覧会鑑賞については「山梨は美術館や博物館が多く、とてもありがたいです。絵を静かに鑑賞していると心が落ち着きます」と話す。

映画は学生時代に最高で年間160本ほど鑑賞したそうで、これまで見た中で評価が高い作品に鈴木清順監督の「ツイゴインルワイゼン」、アンドレイ・タルコフスキー監督の「ノスタルジア」、ジョン・カザヴェテス監督の「オープニング・ナイト」、リドリー・スコット監督の「ブレイドランナー」、ジャン＝リュック・ゴダール監督の「カルメンという名の女」、クリント・イーストウッド監督の「ブロンコ・ビリー」などを挙げる。



甲府南部工業団地・西下条地区は食品加工を主とする地場企業による工業団地で、ニューロン製菓はその一角を占めている＝いずれも甲府市西下条町



ト)、リドリー・スコット監督の「ブレイドランナー」、ジャン＝リュック・ゴダール監督の「カルメンという名の女」、クリント・イーストウッド監督の「ブロンコ・ビリー」などを挙げる。

読書は最近では歴史書を中心に読み、漫画は子どものころから多読。今はアイヌの歴史を深く研究したうえで誇り高いアイヌの姿を描く野田サトル「ゴールデンカムイ」を愛読しているという。

「鉄道は、乗り鉄。今はあまり時間がとれないけれど、仕事で行く先々の鉄道で土地の人々の空気に触れることが好きです」という。山梨についても「身延線も素晴らしいが、中央線のトンネルを抜けたところで盆地が開けたところや、峡谷美など景観を楽しみながら乗れる鉄道であることをもっとアピールしたほうがよいと思う」と持論を話す。

最近ようやく始めたというゴルフは昨年、コンペに3回ほど参加しただけで、まだまだ練習が足りないのだそう。「ゴルフは人生に似て、いろいろなことを学ばせてくれます。アプローチが好き」

【座右の銘】

初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。（新約聖書 ヨハネによる福音書 一章一節）

「私は弟の死に伴う帰郷後、クリスチャン（プロテスタント）になりましたが、この箇所特に強い印象を受けます。私たち人間の世界の存立基盤であり、社会と人と人との関係を成立させるのが『ことば』であり、ことばを疎かにすることはできない、という決意を持って、いつもこの箇所に立ち戻ります。会社経営に携わるようになって、社内での言葉が少なくなること気づき、経営陣と社員とがきちんと話をして互いに発信していくことが大切だと感じました。月に1回の全体朝礼では、企業理念などを社員が唱和し、スピーチしてもらいます。音楽評論の原稿執筆はその意味での趣味ではなく仕事であり、言葉を通じて伝えていくということが今の自分のベースになっています」

【好きな飲み物】

スムージー、コーヒー

「お酒は素晴らしい発酵飲料であり、日本酒、ワイン、ビール、ウィスキー、焼酎、マッコリなど、その味には種類を問わず、心から魅了されますが、残念ながらアルコールに著しく弱く、ビールをコップ半分も飲めば、かなり酔ってしまいます。にごり酒の味は好きで、スムージーも含め、素材感のある飲み物が好きです」

【出張の際などの手土産】

「桔梗信玄餅、金精軒の信玄餅や生信玄餅をはじめ、くろ玉や月の雫など郷土の良さを伝えるお菓子が中心です。弊社はOEMのため、自社製品を持参できないのが残念でしたが、これからはアンデのデニッシュ食パンを加えることができます」

【メッセージ1】

「小さな飴から、大きな幸せ。」を企業理念に掲げ、大手メーカーをはじめとする山梨県外、県内のお客さまからのさまざまなニーズにお応えし、キャンディー、キャラメルを製造してまいりました。飴は小さいですが、のどを潤し、甘みで力を得て、さまざまな成分をその内に取り込むことができる「幸せの器」です。皆さまの「大きな幸せ」を実現する「幸せの小さな器」をこれからもお届けしてゆきたいと思っております。

【メッセージ2】

昨年11月に京都のデニッシュ製造・販売会社「アンデ」を統合合併させていただきました。「世界中の朝に、おはよう。」をモットーに、朝食に幸せを運ぶハイ・クオリティーのデニッシュ食パンをお届けする会社です。折しも今年にはニューロン製菓の創業70周年、甲府市「開府500年」でもあり、弊社は甲府市からの依頼で記念キャンディーをつくらせていただいています。その記念すべき年に武田三代（信虎・信玄・勝頼）が時にあこがれ、時に目指した京都の地の企業と結ばれることに、大きな意味を感じます。両者ともども、皆さまにさらなる幸せをお届けすべく頑張っまいります。

【メッセージ3】

弊社はヴァンフォーレ甲府、クリーンファイターズ山梨と山梨のスポーツチームを協賛の形で応援させていただいています。ラグビー勝沼クラブの福屋貴弘監督が社員でもあるおかげで、社会人スポーツのことを知る機会が増えて感謝しています。いろいろな才能を持っている社員が集うことが企業の財産でもあります。今年から、歴史ある国際的な音楽コンクール「古楽コンクール山梨」に共催として加わらせていただくことにしました。これからも社会文化活動を応援していきたいと考えています。

*企業データ

企業名：ニューロン製菓株式会社

住所：〒400-0054 甲府市西下条町1167-36

創業：1949（昭和24）年1月

従業員数：約200人（パートナー社員、派遣社員含む）

主な業務内容：キャンディー、キャラメルの製造

関連会社：株式会社アンデ

住所：〒612-8392 京都市伏見区下鳥羽北ノ口町58

主な業務内容：デニッシュパン製造・販売



山田YBSグループ各社

山田YBS厚生文化事業団

ヴ-

グループ採用情報

富士山をきれいにする会

